

中山間地域対策プロジェクトチーム 現場支援のステップ

■基本コンセプト：「次世代定住に向けた仕組みづくり」

しまねの郷づくりカルテ <http://web-gis.pref.shimane.lg.jp/sato/karute/>

浜田市 美又地区(2013年度)

拠点地図

データダウンロード

概要PDF

詳しくは
ココ！



トップ

人口(国調)

暮らし

人口(住基)

人口シミュレーション

産業

成果事例

取組み

STEP1 地域の実態把握～地域の姿を再確認し、目標を共有しましょう～

①

②

③

「カルテ」から
地域の状況を把握

人口推計から
将来の地域の状況を確認

地域の維持のために
必要な「定住組数」を確認

取り組み体制、
活動団体・人材を確認

①

しまねの郷づくりカルテ

市町村名 浜田市 地区名 美又

「人口データ」による評価

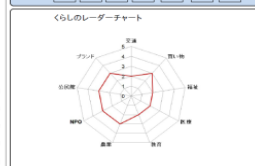
	数値	順位	評価
人口	380	189	2
世帯数	137	191	2
高齢化率	38.7	118	3
若年離世率	6.8	202	2
人口増減率	▲17.2	216	2
4歳以下人口比率	1.6	192	2
1,000人あたり定住必要数	2.6	156	3
20～30代女性比率	5.0	187	2
高齢者単独世帯率	1.8	22	4
評価合計(最大50点)			26

「暮らしの条件」による評価

	数値	順位	標準化	評価
交通	27.6	206	61.2	2
買い物	2.6	111	48.2	3
福祉	0.0	91	44.6	2
医療	41.5	203	61.8	2
教育	84.5	210	64.5	2
評価合計(最大25点)				11
NPO	0	67	46.0	3
公民館	0	32	46.2	3
農業	66.2	108	51.7	3
ブランド	0	124	42.7	3



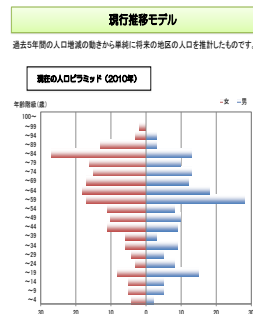
拠点数			
商業施設	0	大規模商業施設	0
買い物	1	スーパー	0
医療	0	診療所	0
福祉	0	介護施設	0
教育	0	小学校	0
公民館	0	公民館	1
農業	0	農家	0
ブランド	0	ブランド	0



2013 年現在のこの地区は
緊急性グループです。

②

人口シミュレーション(浜田市・美又地区)

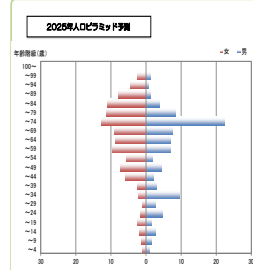


必要定住組数
数字を変えてみよう！

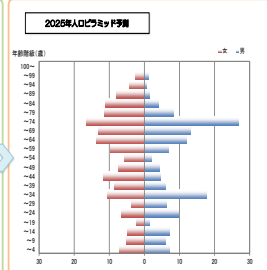
- ① 20歳未満 組/年
- ② 30歳代前半(子供連れ(1人)) 組/年
- ③ 60歳代後半 組/年

数字を変えると連動して下のグラフが変化するよ！

実行のままで推移したら・・・



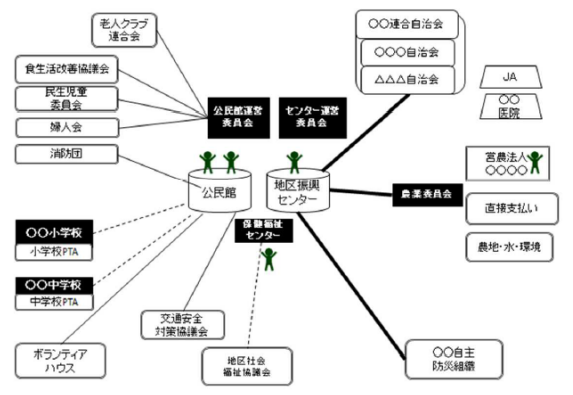
必要定住組数が地区に入ってきたら・・・



③

〇〇地区の地元関係図(例)

さあ実際に作ってみよう！！！！



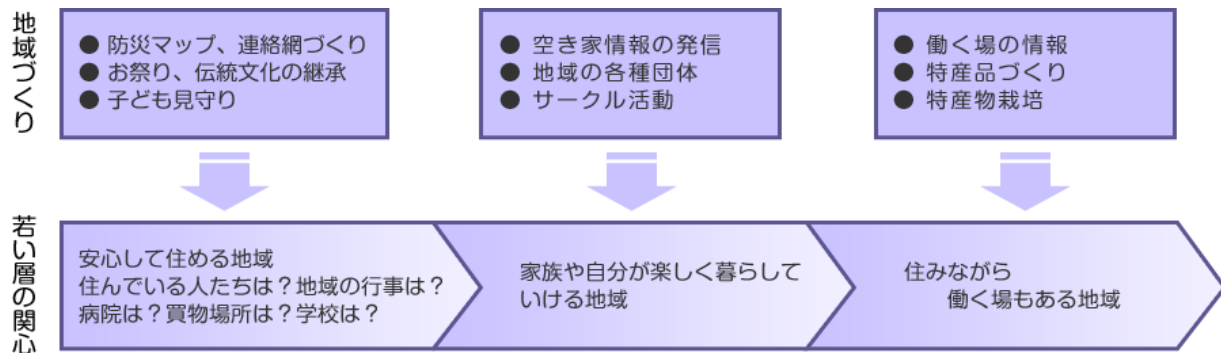
- 地域住民
- 集落等
- 民間組織
- 行政職員
- 行政組織
- 企業等
- 外部人材、専門家
- 常勤スタッフ
- 日常的に関わる仕事
- 月に数回程度関わる仕事
- 年に数回程度関わる仕事
- 会議に出席する程度

STEP2 地域によさや課題を探る～まずできることは何だろうか？～

□ 暮らしている地域の良さや、これから暮らし続けていくために解決が必要な地域の課題、活用のできるような地域の資源などについて話し合い

□ “若い世代やUターン世帯が、住みやすい地域はどんな地域でどんなことが必要だろうか？”という定住条件づくりの視点からの話し合い

定住する側の関心 ①仕事 ②住居



□ 手法 ワークショップ、住民アンケート、地元学

STEP3 地域づくりの計画の策定～具体的な行動計画を作しましょう～

□ STEP2を踏まえて、「生活支援」という視点に加え、定住に必要な「仕事」、「住居」を視野に入れた地区の取組の計画策定

〇〇地区地域づくり計画（例）

取組内容 （目標）	取組予定時期			活動主体				備考
	短期 2年間	中期 5年間	長期 10年間	個人・グループが 取り組む	各自治会 中心に取り組む	地区で 取り組む	行政が 取り組む	
何を目標としてどんな取組をするか	いつ実施するのか			だれ達が中心に取り組むか				実現に当たって何を準備するか
空き家調査をして、 情報発信	○					◎	○	
防災マップをつくらう	○				○			
生活支援組織を立ち上げよう		○				○		〇〇助成金に申請
産品販売体制をつくらう		○				◎	○	〇〇組織に働きかけ
2年間で1組の定住を実現しよう			○			◎	○	
〇〇〇〇								

STEP4 小さな取組みの実践～できることから行動してみましょう～

- まずは取り組みやすいことから実践（先進地視察、路肩草刈り etc）
※実践後にふりかえり、成果や次の課題を共有



行政支援

P T 活動費

- 次世代定住に向けたより具体的な実践

計画	具体的目標	定住者との関連	行政支援
特産品を生かした加工品づくり	耕作放棄地を利用した農産品栽培	仕事を生み出す	新規就農支援 ● 地域づくり活動体験（定住財団）
	廃校を利用した加工場整備	仕事を生み出す・生きがい	加工場整備 ● 過疎債（市町村） ● プロジェクト交付金（農林水産省）
	加工品の製造・販売	仕事を生み出す・生きがい	技術的支援・販売ルート開拓 ● 専門アドバイザー派遣（しまね暮らし推進課ほか）
空き家の利活用	空き家の調査	住居の提供	
	空き家を確保（所有者との交渉）	住居の提供	
	空き家の小改修	住居の提供	ハード整備支援 ● 住み続ける中山間地域生活サポート事業（しまね暮らし推進課）

※P Tチームによる支援

具体的な計画の取組において、行政の支援が必要となる部分を各専門分野のメンバーが支援にあたる

◆ポイント 複合的な取組による収入の確保

例)

- 半農半X（農林水産部）
 - 水道検針 + 見守り（雲南市鍋山地区）
 - 新聞配達 + 見守り（邑南町口羽地区）
- 等

STEP5 定住の郷宣言～皆が安心して暮らせる地域を目指して～

- 地域の定住環境を整備し、「生活の場」「地域のつきあい」「求める人物像」「働く場所」をパッケージで提示

地域外への情報発信内容例

生活の場	地域のつきあい	求める人物像	働く場所
● 住宅情報 ● 学校、病院、買い物 ● 子育て支援サービス ● インターネット環境等	● 参加が必要な地域行事 ● 自治会費 ● お祭り ● 参加が必要な地域活動	● 地域が求める人材 (例) 独身・家族連れ リタイア組 (例) 集落営農オペレーター	● 世帯の収入 (例) 夫：新規就農 妻：看護・介護師

できる(できた)定住環境から随時パッケージで提案！



地元住民	行 政
定住環境の整ったものを、毎年度版の「定住の郷宣言」として作成	具体的に受け入れる定住環境の整ったものから「定住フェア」等で広く募集
	※地域おこし協力隊、定住財団就労支援事業等の活用による取り掛かり支援
地元が自ら移住者を選び、入ってきた移住者は地域全体でバックアップ	しまねの郷づくりカルテへの掲載、地域支援の中で横展開

- 「定住の郷宣言」例 ※別紙参照

- ① 浜田市美又地区
- ② 農事組合法人 赤馬の里
- ③ 弥栄（移住のてびき）